

2025年10月29日

各位

## 四国化成工業(株)が「新R&Dセンター（仮称）」の建設を決定

四国化成ホールディングス(株)のグループ会社で化学品事業を展開する四国化成工業(株)〔本社：香川県丸亀市、代表取締役社長：濱崎 誠〕は研究開発力強化を目的に、香川県綾歌郡宇多津町の現 R&D センター敷地内に新 R&D センター（仮称）の建設を決定いたしました。2027年12月完成予定です。

### ■背景と目的

当社グループは長期ビジョン「Challenge 1000」に取り組んでおり、2030年にありたい姿として「独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ」を掲げ、事業計画を進めています。中でも R&D センターでは、電子化学材料開発部と機能材料開発部が半導体やプリント配線板などの最先端電子部品に使われる材料の研究開発を、無機化成品開発部がタイヤ原料や硫黄関連材料の研究開発を進めており、各開発部が属する事業のさらなる拡大を目指しています。各事業で最先端の顧客ニーズ、市場の変化を先取りし、かつ柔軟に対応した提案型の研究開発をより推進するために、最適な環境・設備を整えた新 R&D センター（仮称）の建設を決定いたしました。最先端の実験設備と働きやすいオフィス環境を備え、研究開発の高度化とイノベーションの創出を支えるとともに、従業員一人ひとりが安心して能力を発揮できる研究開発環境を実現します。

### ■コンセプトは「独創力の礎」

実際にラボを使用する開発者たちへのヒアリングやワークショップを重ね、本施設のコンセプトを策定しました。R&D 部門は当社グループの企業理念である「独創力」を最も体現すべき組織であり、研究開発は当社の原点・基礎であるという思いから、新 R&D センター（仮称）は「独創力の礎」となる施設にしていきたいと思います。また、過去、現在、そして未来へと時代を超えて R&D 部門が大切にしたい言葉として、創造（CREATION）、協奏（HARMONY）、熱意（PASSION）、誠実（HONEST）の4つの言葉を中心に掲げます。R&D 部門は本施設を拠点に、より高付加価値なビジネスの先導役になるとともに、当社グループ全体の成長・発展に貢献できる人財の発信基地となることを目指します。



▲新R&Dセンター（仮称）完成イメージ

## ■新R&Dセンター（仮称）概要

(1) 所在地	香川県綾歌郡宇多津町浜二番丁 14-1
(2) 投資総額	約 66 億円
(3) 規模	地上 4 階建（地下なし）／鉄骨造 建築面積：2,516 m <sup>2</sup> /延床面積：6,865 m <sup>2</sup>
(4) 主な施設	ラボ（クリーンルーム、イエロールーム*等）、オフィス、会議室、食堂 他 ※新試作棟（鉄骨造地上1階建）を併設
(5) スケジュール	着工：2026年1月、竣工：2027年12月（予定）

\*イエロールーム 感光性材料や光に敏感な物質を扱うため、特定波長の光を遮断した照明環境を備えた部屋のことです。

駐車場の全面に当社グループの四国化成建材(株)の商品である太陽光発電一体型カーポート「ソリスルーフ®」を採用し、再生可能エネルギーの活用によるCO<sub>2</sub>排出削減を図っています。建物全体には高効率な空調・照明設備を導入し、省エネルギー性と快適性を両立させた環境配慮型の設計としています。さらに、「ZEB Ready\*」認証の取得を予定しており、エネルギー使用量の最適化と環境負荷低減を通じて、持続可能な施設運用を推進してまいります。

\*ネット・ゼロ・エネルギー・ビル・レディ 建物の年間一次エネルギー消費量を50%以上削減した建築物に与えられる認証です。

本施設の設計は、研究開発施設の設計・監理に豊富な実績を有するプラナス(株)一級建築士事務所により手掛けられました。

## ■新R&Dセンター（仮称）の特長

本施設の最大の特長は、自由な働き方やコミュニケーションを促す、開放感と柔軟性を備えた空間構成にあります。部署や職種の垣根を越えて人とアイデアが交わることで、開発者一人ひとりの創造力と主体性を引き出し、新しい価値を生み出す場となることを目指しています。また、「独創力」を体現する場として、開発者のチャレンジ精神を刺激し、協働から新たな発想が生まれるような環境を実現しています。



### 展示・エントランス(1F)

当社の製品やこれまでの歩みを紹介する展示スペースを設け、来訪されるお客様や学生、地域の皆さまをお迎えます。



### 食堂・オープンスペースエリア(中間階、4F)

瀬戸内海や瀬戸大橋を望む最上階に食堂を設置。カジュアルな交流の場であると同時に、ワークスペースとしても活用し、部署間の交流を生み出します。



#### ラボ (1~3F)

実験什器と空間を一体的にデザイン。各研究分野に最適な什器レイアウトを採用し、作業効率と安全性を両立しながら、開発者が集中して実験に取り組める環境を整えています。



#### オフィス(2, 3F、中間階)

オフィスとラボが隣接していることで動線効率が良く、ラボ内を見渡せるため安全性が確保されます。また、中間階と吹抜け階段が有機的につながる空間設計により、明るく開放的な空間を作り出しています。

※掲載画像は全てイメージです。

当社グループは 2030 年にありたい姿を描いた長期ビジョン「Challenge 1000」において、事業基盤の強化に向けた人的資本経営の一環として、職場環境改善のための投資を重要施策と位置づけています。今後も、従業員の働く環境の改善に積極的に取り組むとともに、地域社会や環境への配慮を重視し、持続可能な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

以上

このリリースに関するお問い合わせは  
四国化成ホールディングス㈱ 経営企画室まで  
TEL. 0877-21-4119